楽籠OB諸兄殿

タイ「遠征速報」

前略

楽籠タイ遠征団は、11月25日早朝に全員無事帰国いたしました。

猛暑のバンコックから一気に晩秋の成田空港に降り立ち、急に夢から覚め現実に戻った感があります。「遠征速報」ご案内します。

今回の対戦相手はチュラロンコン大（日本の東大と学習院に当たる）とタマサート大（京大に当たる）の2校でした。バンコク到着の21日に両校を招いての交歓会が神島君の司会のもとに、宿泊ホテルのノボテルバンケットルームで開かれました。エース団長の挨拶・町田会長の乾杯の音頭（何と「英語」で）から和やかに始まり、両校へ記念品のプレゼント・選手紹介と進みました。ＯＢと先方の部長先生方、現役選手同士も序々に打ち解け、キャプテン梅村のエール・チュラ大の返礼エール？、締めは海外遠征の主1期牛場さんの挨拶で明日からの試合の健闘を誓ってお開きとなりました。

翌22日は午前の観光の後、チュラロンコン大戦。出だしは双方探りあいで調子が出ず、楽籠が若干リード、これはいける？と応援団も熱が上がったが、松本君の捻挫によるリタイアもあり、相手ガードの素早い動きに翻弄され、また3ポイントを押さえきれず１Ｑは15-15の同点とされました。２Ｑは一進一退の展開、楽籠も3-2のディフェンスでフォローブロックも良かったが再三のチャンスを生かし切れず、22-26の接戦となりました。３Ｑは、オフェンスがかみ合わず約6分間ノーゴールと流れを掴み切れぬまま一時は相手に10点のリードを許してしまいました。最後に3ポイントも決まり、39-43まで追い上げました。４Ｑは双方譲らぬ展開、氏家さんも応援席に居られずベンチに貼り付き応援。中盤プレス気味のディフェンスで頑張りましたが、やはりペースを掴めぬまま50-64でタイムアップ。早いボール回しでもう少し落ち着いたプレーができたらと残念な結果でした。

23日は、朝の観光の後、団長エースの紹介で「山九ータイ」と「タイ バージコンテナー サービス」の2社の企業訪問、歓待を受ける。タイの物流拠点の説明に現役は目をパチクリ。その後ランシットのタマサート校（慶應の日吉校に当たる）へ向かいました。タマサート大は主力が別の大会に遠征中とかで、若い選手主体、まだ個人プレー中心のチームで、2-3ゾーン。１Ｑは小林・都築君の加点で13-8と楽籠リード。２Ｑでは、タマ大の3-2ゾーンを攻めあぐね、またペースを掴めない展開が出て6点しか得点をあげることが出来なかった。タイムアウト等で調整をはかったが、相手は序々に加点し19-36の大量リードを許してしまった。３Ｑは両校とも拙攻が目立ったが楽籠が少し挽回し、31-45．４Ｑも追い上げたが、43-51で終了しました。

両校ともに、今までの遠征で対戦した各校に比べ、想定外の大きくないチームで、まだチームプレーが訓練・洗練されてなく、楽に勝つチャンスがあったように思います。

残念ながら、思うような戦績をあげる事は出来ませんでしたが、学生諸君にとっては、良い経験が出来たのではないかと思います。最終日には、チュラロンコン大の文化祭に招かれて親睦をはかったようです。

今回の遠征には、18期岡本君（タイ-ヤクルト）が赴任1年で仕事の合間に現地ですべての折衝に当たってくれました。タイの人気俳優に似ているとのことで、現地では社員に大人気だとのことです。彼なくしては、今回の海外プロジェクトは実行出来なかった事遠征団員のみならず、楽籠皆で感謝したいと思います。

また、遠征には同行しませんでしたが、11期岩田君、17期青木君、27期古川君が事務局として長期にわたり中心となって準備していただき、感謝に堪えません。

以上簡単ですが遠征速報といたします。なお、ご寄贈いただきました賛助金につきましては、一部現役旅費の補填と運営諸経費に使わせていただきました。楽籠50周年の大プロジェクトの後と言うことで、ＯＢ会よりの遠征予算が大幅に削られたため、大変厳しい状況でしたので、心より感謝申し上げます。

以上ご報告申し上げます。

早々

平成18年12月　　遠征団　団長　　鈴木紘三

海外事務局　　小島豊彦